

今日、人々から愛されているセザンヌ、ルノワール、ロダンといったヨーロッパの芸術家は、明治43年に創刊された文芸・美術雑誌『白樺』によって、初めて本格的な紹介がなされました。私たちの西洋美術への愛着の根は、まさしく『白樺』の時代に発しており、今日の美術観にも有島生馬、志賀直哉、武者小路実篤、木下利玄、児島喜久雄といった同人たち「白樺派」の視点が大きく反映されています。『白樺』の誕生100年を迎える今、白樺派がその時代に何を刻印し、私たちの時代に何を残響させているのかを、美術の面から改めて見つめる展覧会です。

本展は、「第1章 西洋美術への熱狂」、「第2章 白樺派の画家たち」、「第3章 理想と友情を求めて」の3章で構成されます。



ポール・セザンヌ《風景》油彩・カンヴァス 1885-1887年  
大原美術館寄託（白樺美術館より永久寄託）  
白樺美術館第1回展覧会（1921年）出品、『白樺』第12巻第2号掲載



オーギュスト・ロダン《ロダン夫人》ブロンズ 1890-1891年  
大原美術館寄託（白樺美術館より永久寄託）  
白樺美術館第4～6回展覧会（1912～1913年）出品、  
『白樺』第3巻第2号掲載

会 期：2009年11月3日（火・祝）～12月20日（日）

会 場：神奈川県立近代美術館 葉山

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1  
tel.046-875-2800

休 館 日：月曜日（ただし11月23日は開館）、  
11月4日（水）、11月24日（火）

開館時間：午前9時30分～午後5時 [入場は午後4時30分まで]

観 覧 料：一般 1000 (900) 円 20歳未満と学生 850 (750) 円  
65歳以上 500円 高校生 100円

※( )内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障害者の方は無料です。

主 催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協 賛：ダイワボウ情報システム、ライオン、清水建設、大日本印刷

協 力：調布市武者小路実篤記念館、県立神奈川近代文学館

企画協力：ティー・シー・ディー

\*「秋の神奈川再発見キャンペーン」参加イベント

## 関連プログラム

### 開催記念講演会 「『白樺』とその時代」

講師：山梨俊夫（当館館長）

日時：11月3日（火・祝、葉山館無料招待日） 午後2時～4時

会場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂

当日先着70名（申込不要）、無料

### 担当学芸員によるギャラリー・トーク

11月15日（日）、11月29日（日） いずれも午後2時から  
申込不要、無料（ただし観覧券が必要です）

### ファミリー・コミュニケーションの日

毎月第一日曜日（今回は12月6日）は、18歳未満  
または高校生以下のお子様連れのご家族は、  
全員無料で観覧いただけます。

### 11月3日（火・祝）は葉山館無料招待日

どなたでも無料でご入館いただけます。

同展の開催とあわせて、全5回の連続講演会「県立機関活用講座」が開催されます。くわしくは別紙チラシをご覧ください。

## 第1章 西洋美術への熱狂

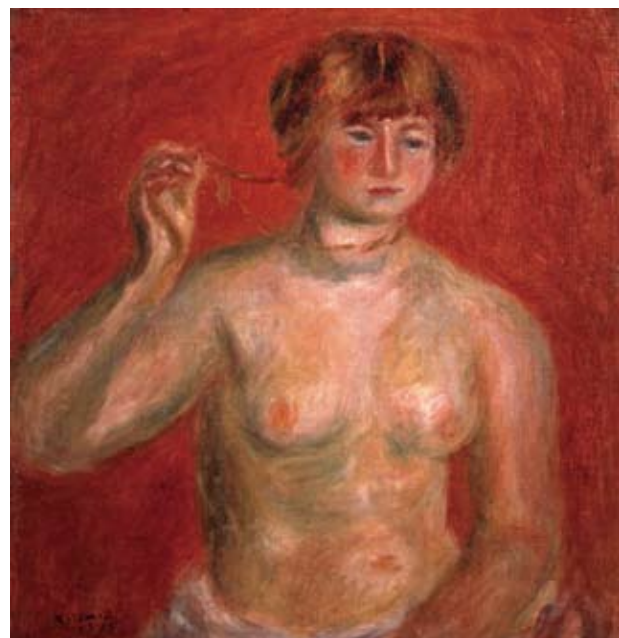
『白樺』に紹介されたヨーロッパの芸術家たちは、同人の鋭い嗅覚で選ばれました。白樺派は、西洋美術に優れた芸術をみただけでなく、人間の生き方の理想的な姿を求めました。彼らが見出した芸術家たちは、芸術に生涯をかけた情熱的な人間として誌上に登場します。その情熱は若い読者にすぐさま伝わり、『白樺』は大正時代の美術を燃え立たせる炉床のひとつとなります。ゴッホ、セザンヌ、ルノワールといった芸術家像には、『白樺』が創り出したイメージが今でも色濃く反映されています。この章は、『白樺』誌上を飾ったセザンヌ、ロダン、ブレイク、クリンガー、ピアズリー、シャヴァンヌ、ロートレック、ゴヤなどの作品を中心に構成されます。



オーブリー・ピアズリー(オスカー・ワイルド『サロメ』の挿図のための素描集)  
「挿絵一覧表のデザイン」 ライブロック印刷・紙 1907年 日本民藝館  
白樺主催泰西版画展覧会(1911年)・白樺主催第5回美術展覧会(1912年)出品、柳宗悦旧蔵



『白樺』第1巻第1号、1910年、個人蔵



梅原龍三郎《黄金の首飾り》油彩・カンヴァス 1913年 東京国立近代美術館  
白樺主催梅原龍三郎油絵展覧会(1913年)出品

## 第3章 理想と友情を求めて

『白樺』同人は志賀直哉、武者小路実篤、児島喜久雄、木下  
利玄、郡虎彦、正親町公和、園池公致、有島武郎、有島生馬、  
里見弴、柳宗悦、長与善郎など学習院出身者が中心になって  
いました。彼らは、美術に強い関心を持って美術関連の記事  
を寄稿するとともに、小説、詩、戯曲、文学評論などを発表  
します。彼らの関心は、演劇、音楽、科学にも広がり、演劇  
公演、コンサートの開催も含めて、さまざまな活動が展開さ  
れ、『白樺』に集う人々も多彩になっていきます。  
この章では、美術作品のみならず、ポスターや展覧会目録、  
写真、手書きの原稿や日記、書籍など数多くの資料を交えて、  
白樺主催展覧会や白樺美術館建設構想、文芸活動など、さま  
ざまな側面から白樺派が掲げた理想や夢を辿ります。

## 第2章 白樺派の画家たち

フランス留学中にヨーロッパ美術の新しい動向を目撃した  
有島生馬は、帰国するとすぐに『白樺』に参加して、セザ  
ンヌの紹介などに文筆を振りました。一方、彼は画家とし  
て、南薫造とともに自身の展覧会を白樺主催で開きます。  
この章は、有島生馬のように同人であった画家、白樺主催  
展覧会に登場し、同人たちと活発に交流した梅原龍三郎、  
岸田劉生、山脇信徳、白滝幾之助、バーナード・リーチ、  
藤島武二といった画家の白樺主催展覧会出品作品を中心に  
構成されます。



岸田劉生《武者小路実篤像》油彩・カンヴァス 1914年 東京都現代美術館  
白樺十周年記念主催岸田劉生作品個人展覧会(1919年)出品、武者小路実篤旧蔵